



# おむすびころりん

昔々、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。

ある日、おじいさんは山へ柴刈りに行きました。お昼になったので、おむすびを食べようとすると…。

ころん。

おむすびが転がってしまいました。

「待て待て、おむすび。」

おじいさんは慌てて追いかけます。

ころん ころん ころん ころん  
すぽんっ。

おむすびは 坂を転がり落ち、穴の中に入ってしまった。

すると、穴の中から歌声が聞こえて来ました。

♪おむすび ころりん、うれしいな

驚いたおじいさんが穴をのぞきこむと、  
「ややつ。」

おじいさんも穴の中へ落ちてしまいました！

穴の下は広く、ろうそくが灯っています。ねずみたちが集まって来ました。

「おじいさん、おいしいおむすびをありがとう。お礼に、お餅をつきましょう。」

と言って、歌いながら餅つきを始めました。

♪ねこさえ こなけりや

ねずみの ごくらく

すっとな すっとな すっとな

つきあがった餅を、おじいさんはたらくご馳走になりました。

「ありがとう。」

おばあさんが待っているから、そろそろ帰るとするかな。」

すると、ねずみたちは大きいつづらと小さいつづらを持って来て、

「どちらか選んでお持ち帰りください。」

おじいさんはお礼を言って、小さい方を選びました。

家に帰ったおじいさんとおばあさんが、つづらを開けると…。なんと、中から金銀小判がザクザク！

その様子を見ていた、隣の欲張りなおじいさん。

「しめしめ、良いことを聞いたぞ。」

さっそくおむすびを持って山に行き、おむすびをわざと穴に落としました。

そして、自分も穴に飛び込みました。

ねずみたちが集まって来て、

「おじいさん、おいしいおむすびをありがとう。お礼に、お餅をつきましょう。」

♪ねこさえ こなけりや

ねずみの ごくらく

すっとな すっとな すっとな

おじいさんは、早くつづらが欲しいので、「ニャーゴ。」

ねずみが嫌う、猫の鳴きまねをしました。

慌てたねずみたちは散り散りに逃げ、辺りは真っ暗になりました。

おじいさんは、

「つづらはどこじゃあ…。」

出口が分からなくなり、家に帰ることができなくなりました。

(おしまい)